



鶴岡信用金庫

第187回
中小企業の

景気動向

2021年1月~3月



2021年1月~3月期の景気の現状と4月~6月期の見通し

特別調査「新型コロナ感染拡大長期化の影響と新常態(ニューノーマル)への対応について」

目次

- P01 概況
- P03 製造業
- P05 建設業
- P07 卸売業
- P09 小売業
- P11 サービス業
- P13 不動産業
- P15 参考資料
- P17 特別調査

凡例

1. 調査の目的 経済情勢の変化が激しい経営環境下における企業活動の実態をとらえ、今後の企業経営の資料として活用する。
2. 調査時点 2021年3月1日~8日
3. 調査内容 (イ) 業況判断 (今期の業況・来期の予想) (ロ) 売上・収益・価格の動き (ハ) 経営上の問題点 (ニ) 当面の重点経営施策
4. 調査先・業種と企業数 (庄内地区の中小企業のうち、当金庫取引先を主とした企業168社から、当金庫営業店の職員が共通の調査表に基づき聞き取りによる調査を実施したものです)
・製造業33社・小売業48社・建設業31社・サービス業26社・卸売業20社・不動産業10社
5. 分析方法 各質問項目について「良い(増加)・悪い(減少)」の構成比の差=判断指数・DI値を中心にして分析を行った。

業況判断
天気図

【悪い】←



~▲30



~▲20



~▲10



~0~



+10~



+20~



+30~

→【良い】

2021年1月～3月期の景気の現状と4月～6月期の見通し

回答企業168企業（回答率100%）の調査結果

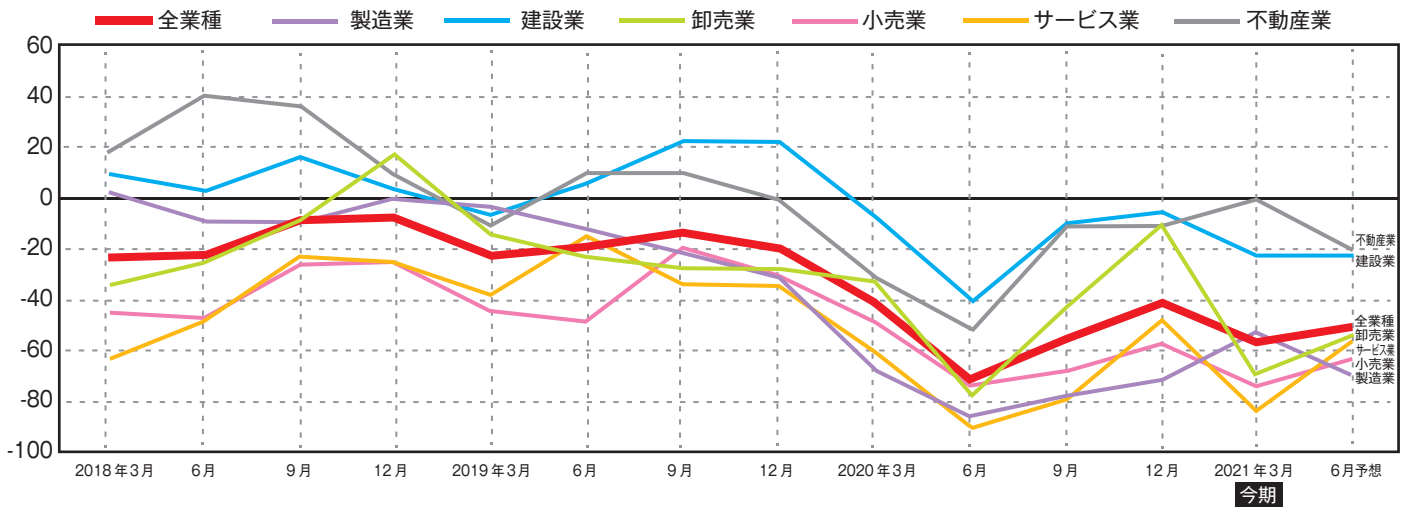
概況判断

景況感の悪化幅が拡大した

庄内地域調査対象168企業の2021年1月～3月期の業況は、「**良い**」と回答した企業の割合が8.3ポイント、「**悪い**」と回答した企業の割合は66.1ポイントで、業況判断指数・DI値（「**良い**」-「**悪い**」）は▲57.8となり、前期（2020年10月～12月期 ▲39.3）に比べ18.5ポイントマイナス幅が拡大しました。

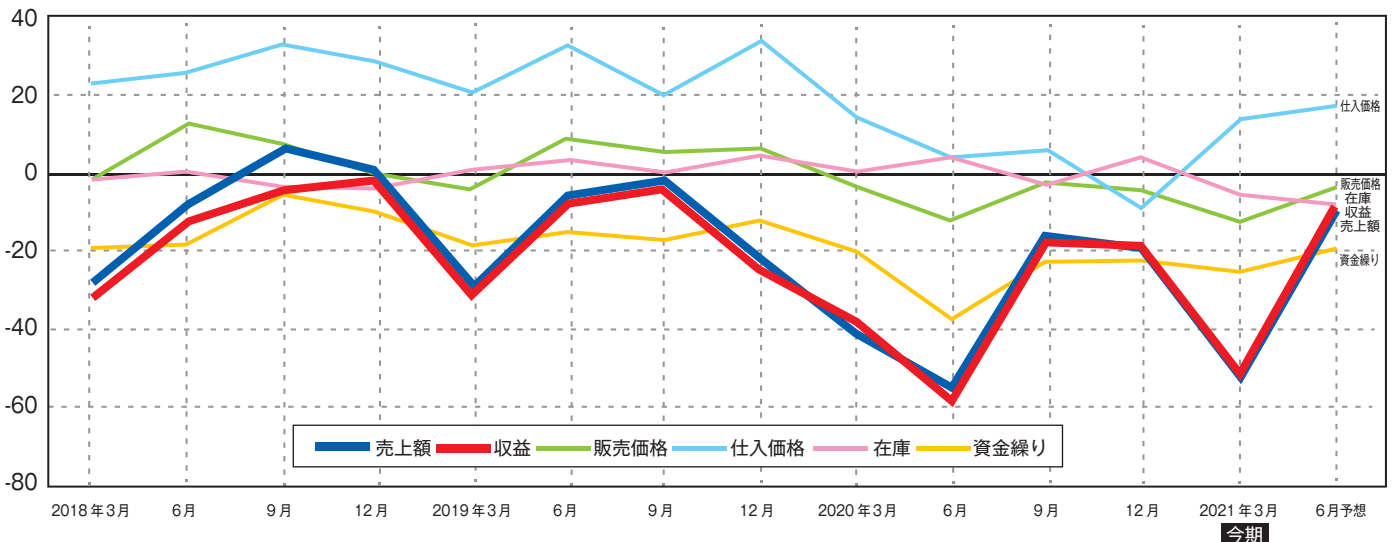
業種別の業況判断指数・DI値（前期比）は、製造業▲54.6、建設業▲22.6、卸売業▲70.0、小売業▲75.0、サービス業▲84.6、不動産業0.0となり、製造業と不動産業の悪化幅が改善したものの、他の業種においては前期に比べ業況の悪化幅が拡大しました。

業況判断 [DI] 全業種



売上・収益・価格等の状況

製造業と不動産業を除く業種において、「**売上額**」、「**収益**」、「**販売（請負）価格**」が前期に比べ悪化しました。業種別の対前期比売上額では、製造業がD I 前期比+18.3、建設業同▲35.5、卸売業同▲50.0、小売業同▲60.5、サービス業同▲73.2、不動産業同+60.0と、製造業と不動産業が前期に比べ改善しましたが、建設業・卸売業・小売業・サービス業は前期に比べ売上（受注）高は大きく減少しました。業種別の対前期比収益は、製造業がD I 前期比+3.1、建設業同▲19.3、卸売業同▲75.0、小売業同▲58.3、サービス業同▲65.4、不動産業同+80.0となり、不動産業は水面下を脱し、製造業はマイナスながら前期に比べ悪化幅が改善しました。一方で、建設業・卸売業・小売業・サービス業は前期に比べ収益は大きく悪化しました。

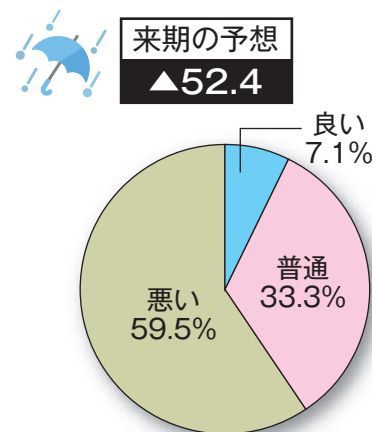
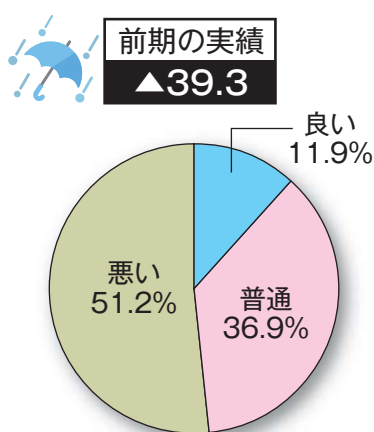
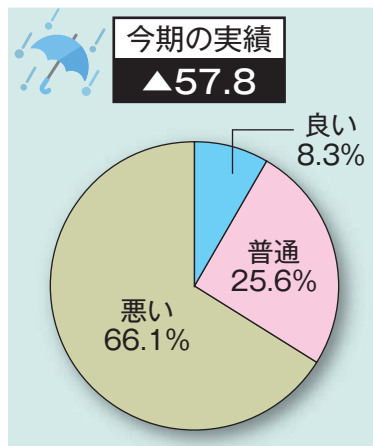


庄内地域調査対象 168 企業の 2021 年 4 月～6 月期の業況見通しは、「**良い**」と回答した企業の割合が 7.1 ポイント、「**悪い**」と回答した企業の割合は 59.5 ポイントで、業況判断指数・DI 値（「**良い**」-「**悪い**」企業割合）は▲52.4 となり、今期（2021 年 1～3 月期▲57.8）に比べ 5.4 ポイント改善し、来期の景況感は悪化幅がやや弱まると見通しています。

業種別の対前期比予想業況判断指数は、製造業が D I 値前期比▲15.1、建設業同 ±0、卸売業同 +15.0、小売業同 +12.6、サービス業同 +26.8、不動産業同▲20.0 となり、製造業と不動産業の業況は悪化幅が拡大するも、卸売業・小売業・サービス業の業況はマイナス幅が改善すると見通しています。

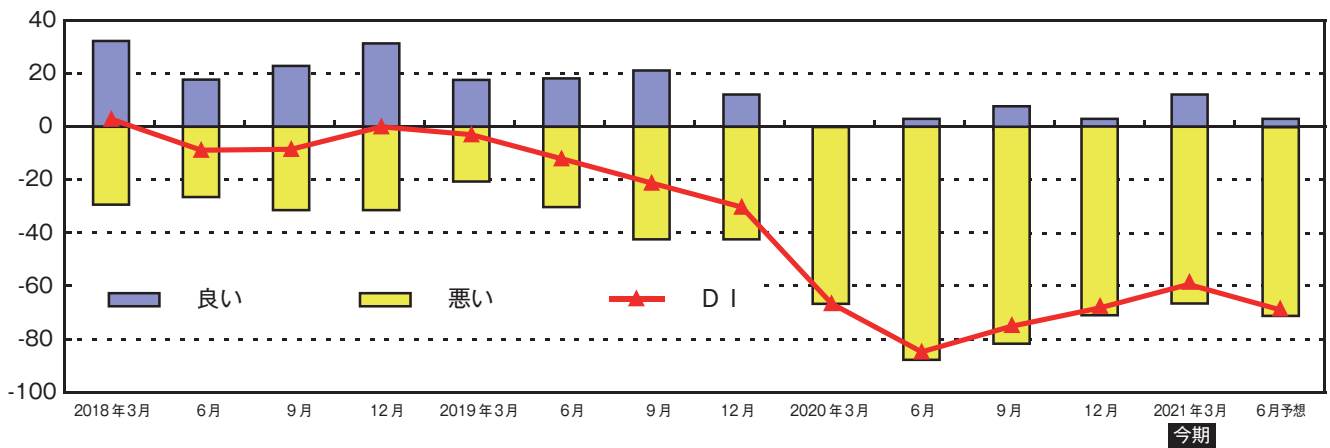
業況判断指数(DI 値)の動き

(業況判断 総合)



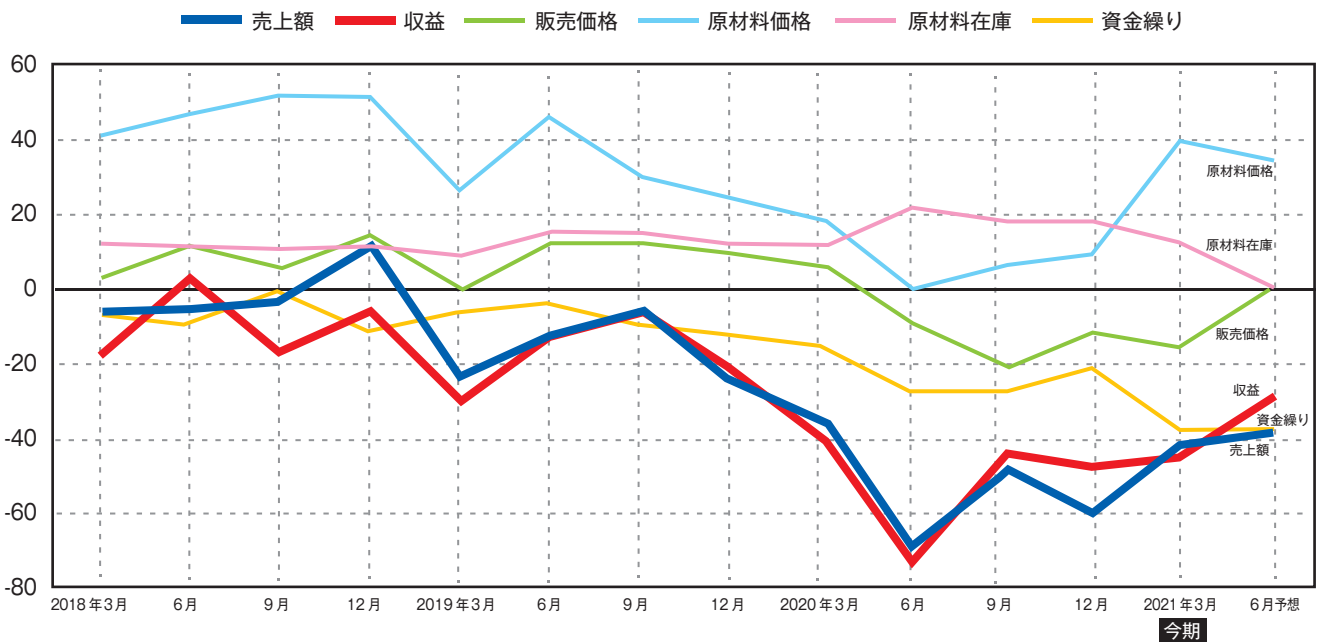
		今期の実績	前期の実績	前期比較	来期の予想	来期予想比較	前年同期実績	前年同期比較
業況判断 総合		▲57.8	▲39.3	- 18.5	▲52.4	+5.4	▲40.8	- 17.0
内訳	良い	8.3	11.9	- 3.6	7.1	- 1.2	10.0	- 1.7
	普通	25.6	36.9	- 11.3	33.3	+7.7	39.2	- 13.6
	悪い	66.1	51.2	+14.9	59.5	- 6.6	50.8	+15.3
売上額		▲53.0	▲19.0	- 34.0	▲7.1	+45.9	▲40.4	- 12.6
収益		▲52.4	▲18.5	- 33.9	▲7.1	+45.3	▲38.0	- 14.4
販売(請負)価格 料金		▲13.0	▲3.0	- 10.0	▲3.0	+10.0	▲2.9	- 10.1
仕入・原材料価格		13.7	9.5	+4.2	15.5	+1.8	15.2	- 1.5
在庫		▲4.2	4.9	- 9.1	▲7.1	- 2.9	0.7	- 4.9
内訳	過剰	9.9	14.8	- 4.9	5.6	- 4.3	10.4	- 0.5
	適正	76.1	75.4	+0.7	81.7	+5.6	79.9	- 3.8
	不足	14.1	9.9	+4.2	12.7	- 1.4	9.7	+4.4
資金繰り		▲25.6	▲23.2	- 2.4	▲20.2	+5.4	▲19.8	- 5.8
残業時間		▲20.8	▲13.0	- 7.8	▲14.8	+6.0	▲19.3	- 1.5
人手		▲3.2	▲20.3	+17.1	▲14.4	- 11.2	▲20.5	+17.3
設備投資		▲14.0	▲20.9	+6.9	▲17.7	- 3.7	▲16.2	+2.2
内訳	過剰	6.3	3.2	+3.1	3.2	- 3.1	3.7	+2.6
	適正	73.4	72.8	+0.6	75.9	+2.5	76.4	- 3.0
	不足	20.3	24.1	- 3.8	20.9	+0.6	19.9	+0.4

概況判断 業況の悪化幅がやや改善した。



今期の業況判断は、「良い」と回答した企業の割合が12.1ポイント、「悪い」と回答した企業は66.7ポイントで、業況DI(「良い」－「悪い」)は▲54.6となり、前期(▲69.7)に比べ15.1ポイントマイナス幅が改善しました。来期(2021年4～6月)の予想DIは▲69.7で、今期に比べマイナス幅が15.1ポイント拡大し、業況の悪化幅は拡大すると見通しています。

売上・収益・価格等の状況



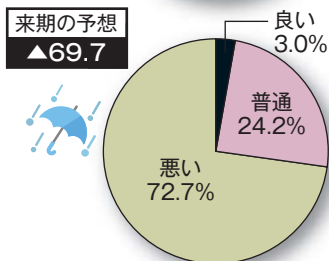
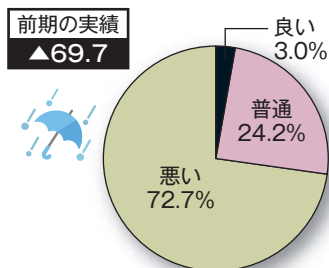
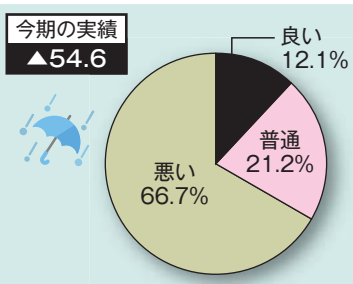
前期(2020年10～12月)に比べ、「売上額」、「収益」とともにマイナス幅がやや改善しました。また、「販売価格」の下降幅が拡大するも「原材料価格」の上昇幅は引き続き拡大しました。「原材料在庫」は過剰感がやや緩和するも、「資金繰り」の窮屈感は拡大しました。

来期の見通し

来期(2021年4月～6月)は、「売上額」と「収益」のマイナス幅はやや改善すると見通しています。また、「販売価格」は上昇に転じ、「原材料価格」については今期に比べやや改善すると見通しています。「原材料在庫」は過剰感が解消すると見通しているも、厳しい状況が続く資金繰りについては、改善しないと見通しています。

業況判断指数(DI値)の動き

(業況判断)



	今期の実績	前期の実績	前期比較	来期の予想	来期予想比較	前年同期実績	前年同期比較
業況判断 総合	▲54.6	▲69.7	+15.1	▲69.7	-15.1	▲66.6	+12.0
内訳	良い	12.1	3.0	+9.1	3.0	-9.1	0.0
	普通	21.2	24.2	-3.0	24.2	+3.0	33.3
	悪い	66.7	72.7	-6.0	72.7	+6.0	66.6
売上額	▲42.3	▲60.6	+18.3	▲36.4	+5.9	▲36.4	-5.9
受注残	▲33.3	▲33.4	+0.1	▲33.3	0.0	▲36.3	+3.0
収益	▲45.4	▲48.5	+3.1	▲30.3	+15.1	▲39.4	-6.0
販売(請負)価格	▲15.2	▲12.1	-3.1	0.1	+15.3	6.1	-21.3
仕入価格・原材料価格	39.4	9.1	+30.3	33.3	-6.1	18.2	+21.2
在庫	12.1	18.2	-6.1	0.0	-12.1	12.1	0.0
内訳	過剰	21.2	18.2	+3.0	9.1	-12.1	15.1
	適正	69.7	81.8	-12.1	81.8	+12.1	81.8
	不足	9.1	0.0	+9.1	9.1	0.0	3.0
資金繰り	▲36.4	▲21.2	-15.2	▲36.4	0.0	▲15.1	-21.3
残業時間	▲30.3	▲39.4	+9.1	▲33.3	-3.0	▲24.2	-6.1
人手	3.0	9.1	-6.1	3.1	+0.1	▲24.2	+27.2
設備投資	▲6.0	▲21.2	+15.2	▲15.1	-9.1	▲12.1	+6.1
内訳	過剰	18.2	9.1	+9.1	9.1	-9.1	9.1
	適正	57.6	60.6	-3.0	66.7	+9.1	69.7
	不足	24.2	30.3	-6.1	24.2	0.0	21.2

経営上の問題点・重点施策

	項目	前期	今期
1	売上の停滞・減少	78.8	72.7
2	利幅の縮小	24.2	24.2
3	原材料高	9.1	21.2
3	同業者間の競争激化	27.3	21.2
3	工場の狭小・機械の老朽化	15.2	21.2

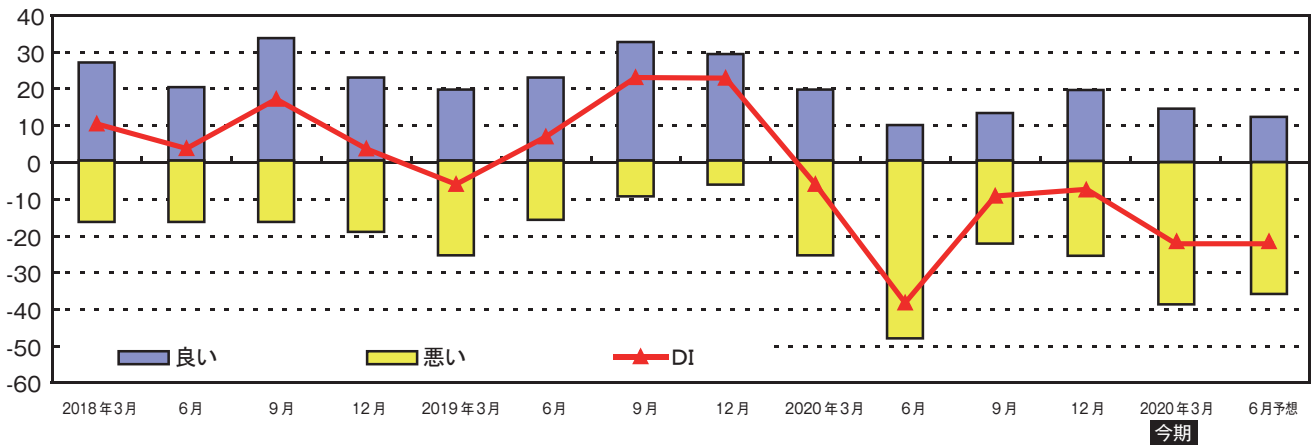
	項目	前期	今期
1	販路を広げる	60.6	60.6
2	経費を節減する	48.5	54.5
3	人材を確保する	15.2	24.2
4	情報力を確保する	18.2	21.2
5	新製品・技術を開発する	24.2	18.2

調査員のコメント

- 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、先行き不透明感はあるものの社員の新規採用は例年通り行った。リーマンショック時に採用した人材が、現在は自社の中核的な人材となっていることから、経済の低迷期は社員採用の好機と捉えている。(その他製造業)
- 現状、受注量に大きな変動はなく売上高は安定している。但し、発注者から価格の引き下げ要請が一段と強くなり、今後の収益に影響を及ぼす恐れを懸念している。(建設用金属製品製造業)
- 新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて売り上げは減少している。一昨年に導入した新型工作機械により、大幅な製造の効率化が図られ、また、同機械でのみで生産することが出来る製品の受注も徐々に増加している。また、独自に開発したコロナ関連の新商品を1月から販売しており、広くPRを行っている。(金属製品製造業)
- 新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて売上高は減少している。コロナ前の水準に戻るまでには、今後数年の期間を要すると予想しており、現状の受注量でも利益を出すことが出来る体制に変えていく必要がある。一方で、従業員の残業や休日出勤が減ったことにより、従業員の負担は軽減されている。(電気機械器具製造業)

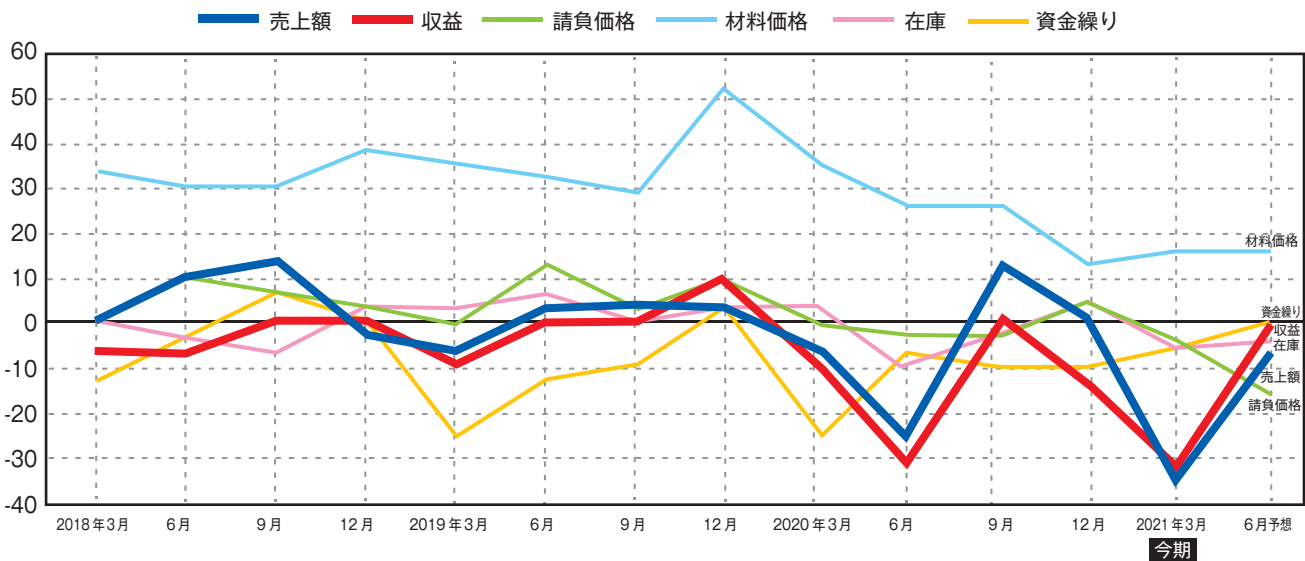
◆◆◆ 建設業 31社

概況判断 業況判断指数の悪化幅が拡大した。



今期の業況判断は、「**良い**」と回答した企業の割合が16.2ポイント、「**悪い**」と回答した企業の割合は38.8ポイントで、業況DI(「**良い**」－「**悪い**」)は▲22.6となり、前期(▲6.4)に比べ16.2ポイントマイナス幅が拡大しました。来期(4～6月)の予想DIは▲22.6で、今期と同率となり、業況は改善しないと見通しています。

売上・収益・価格等の状況



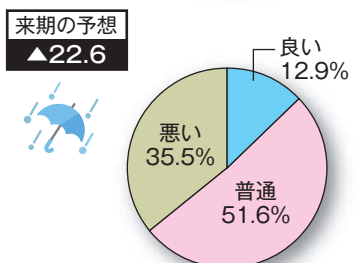
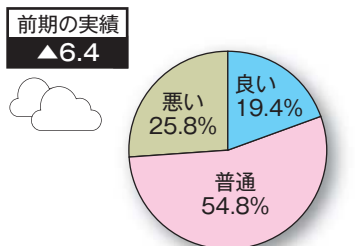
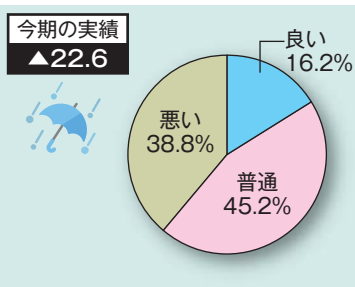
前期(2020年10～12月)に比べ、「**売上額**」は減少に転じ、「**収益**」の悪化幅が拡大しました。「**請負価格**」は上昇から下降に転じ、「**材料価格**」の上昇幅はやや拡大しました。在庫については在庫過多から品薄に転じ、資金繰りの窮屈感はやや改善しました。

来期の見通し

来期(2021年4～6月)の「**売上額**」予想DIはマイナスながら改善すると見通しています。また、「**収益**」は悪化の状況を脱し、「**在庫**」については品薄の状況がやや改善すると見通しています。「**資金繰り**」については、窮屈な状況を脱し資金繰りは改善すると見通しています。

業況判断指数(DI値)の動き

(業況判断)



		今期の実績	前期の実績	前期比較	来期の予想	来期予想比較	前年同期実績	前年同期比較
業況判断 総合		▲22.6	▲6.4	-16.2	▲22.6	0.0	▲6.4	-16.2
内訳	良い	16.2	19.4	-3.2	12.9	-3.3	19.4	-3.2
	普通	45.2	54.8	-9.6	51.6	+6.4	54.8	-9.6
	悪い	38.8	25.8	+13.0	35.5	-3.3	25.8	+13.0
売上額		▲35.5	0.0	-35.5	▲6.4	+29.1	▲6.5	-29.0
受注残		▲35.5	▲13.0	-22.5	0.0	+35.5	▲16.1	-19.4
施工高		▲29.1	▲3.2	-25.9	▲6.5	+22.6	▲3.2	-25.9
収益		▲32.2	▲12.9	-19.3	0.0	+32.2	▲9.7	-22.5
請負価格		▲3.3	3.3	-6.6	▲16.1	-12.8	▲0.1	-3.2
材料価格		16.1	12.9	+3.2	16.2	+0.1	35.5	-19.4
在庫		▲6.5	3.3	-9.8	▲3.3	+3.2	3.2	-9.7
内訳	過剰	0.0	6.5	-6.5	3.2	+3.2	3.2	-3.2
	適正	93.5	90.3	+3.2	90.3	-3.2	96.8	-3.3
	不足	6.5	3.2	+3.3	6.5	0.0	0.0	+6.5
資金繰り		▲6.5	▲9.7	+3.2	0.0	+6.5	▲25.8	+19.3
残業時間		0.0	▲6.4	+6.4	▲6.4	-6.4	▲16.1	+16.1
人手		▲45.1	▲48.4	+3.3	▲25.8	+19.3	▲32.3	-12.8
設備投資		▲3.2	▲6.4	+3.2	▲9.7	-6.5	▲6.4	+3.2
内訳	過剰	6.5	0.0	+6.5	3.2	-3.3	0.0	+6.5
	適正	83.9	93.5	-9.6	83.9	0.0	93.5	-9.6
	不足	9.7	6.4	+3.3	12.9	+3.2	6.4	+3.3

経営上の問題点・重点施策

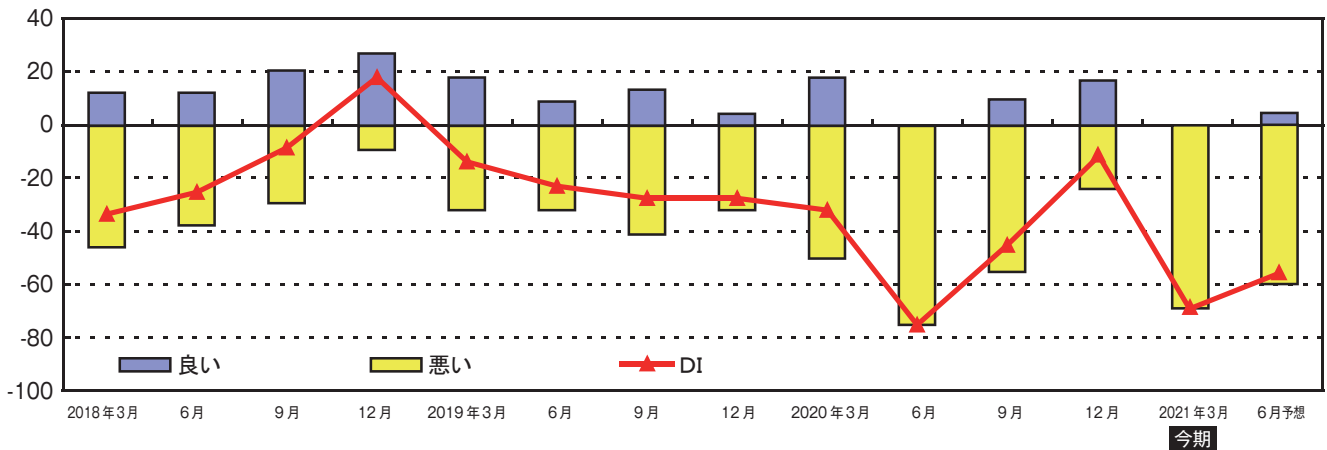
	項目	前期	今期
1	売上の停滞・減少	41.9	54.8
2	人手不足	41.9	45.2
3	天候の不順	6.5	25.8
4	同業者間の競争激化	22.6	22.6
4	利幅の縮小	22.6	22.6

	項目	前期	今期
1	技術力を高める	38.7	51.6
2	人材を確保する	38.7	45.2
3	販路を広げる	48.4	41.9
4	情報力を強化する	41.9	35.5
5	経費を節減する	45.2	29.0

調査員のコメント

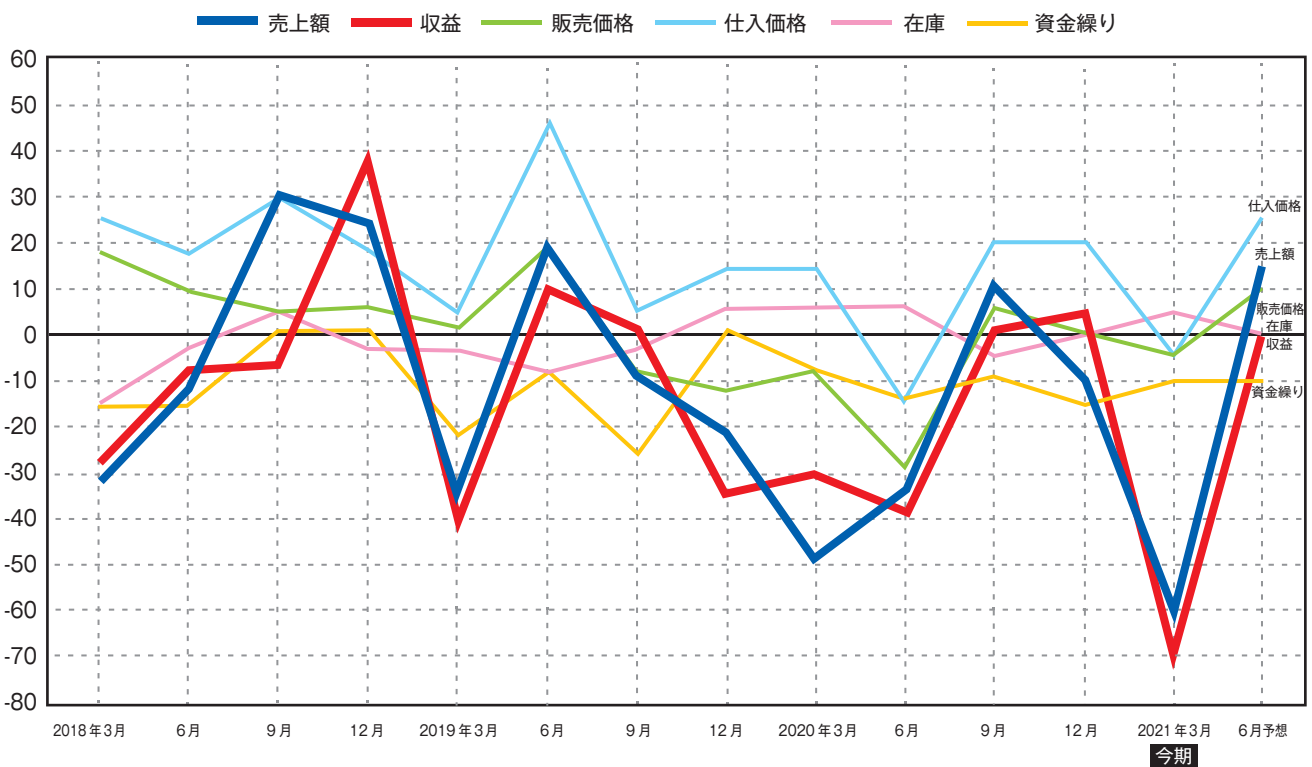
- 材料価格や外注単価が高騰したことで利益率が低下している。直受工事が少ない業種であり、総合建築業者と良好な関係を維持することに注力しており、建物板金工事の受注件数については同業他社よりも多く確保している。引き続き職人の確保が課題となっている。（職別工事業）
- 前年並みの工事受注あり、新型コロナウイルス感染拡大による直接的な影響は受けていないものの、新たに就労予定であった外国人労働者や海外技術者が来日できず、工期の延長を余儀なくされた。（設備工事業）
- 地区内の社屋やショールーム新築等、民間からの受注が堅調に推移している。競合する大手建設業の中であって、情報アンテナを高く掲げ、地区内の情報をいかに早く掴むことに注力しており、現在進行している開発事業について、プロジェクトチームであたっているということです。（総合工事業）
- 定年による従業員の退職に加え、従業員の退職が相次いでおり、労働環境の整備が急務であると考えている。受注する工事現場の多くが遠方であり、自宅を長期間留守にすることなどにより従業員に負担を強いている状況である。今後は、地場での工事受注確保の比率を上げると共に従業員の待遇改善に引き続き対応する。（総合工事業）

概況判断 業況は大きく落ち込んだ。



今期の業況判断は、「良い」と回答した企業は無く、「悪い」と回答した企業の割合は70.0ポイントで、業況DI（「良い」－「悪い」）は▲70.0となり、前期（▲10.0）に比べ60.0ポイントマイナス幅が拡大し、業況は大きく落ち込みました。来期（2021年4～6月）の予想DIは▲55.0で、今期に比べマイナス幅が15.0ポイント改善するも、業況は引き続き厳しいと見通しています。

売上・収益・価格等の状況



前期（2020年10月～12月）に比べ、「売上額」、「収益」共に大きく落ち込みました。「販売価格」は上昇から下降に転じ、「仕入価格」も上昇から下降に転じました。「在庫」については、在庫過多に転じるも「資金繰り」の窮屈感はやや弱まりました。

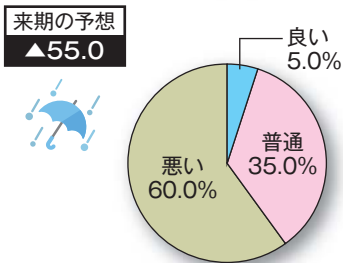
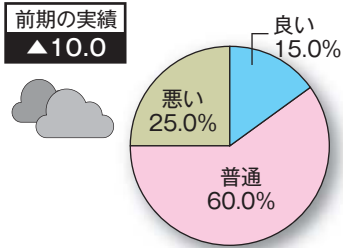
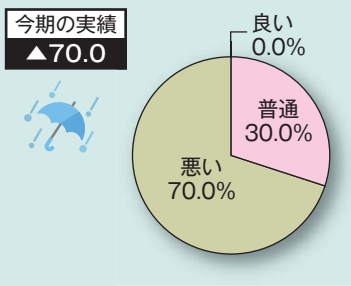
来期の見通し

来期（2021年4月～6月）は、「売上額」「収益」共に大きく増加し、好転すると見通しています。「販売価格」は下降から上昇に転じるものの、「仕入価格」も上昇すると見通しています。また、来期は「在庫」の過多が解消するも、「資金繰り」の窮屈感は改善されないと見通しています。

業況判断指数(DI値)の動き

(業況判断)

(%)



	今期の実績	前期の実績	前期比較	来期の予想	来期予想比較	前年同期実績	前年同期比較	
業況判断 総合	▲70.0	▲10.0	-60.0	▲55.0	+15.0	▲31.8	-38.2	
内訳	良い	0.0	-15.0	5.0	+5.0	18.2	-18.2	
	普通	30.0	60.0	-30.0	35.0	+5.0	31.8	-1.8
	悪い	70.0	25.0	+45.0	60.0	-10.0	50.0	+20.0
売上額	▲60.0	▲10.0	-50.0	15.0	+75.0	▲50.1	-9.9	
収益	▲70.0	5.0	-75.0	0.0	+70.0	▲31.8	-38.2	
販売価格	▲5.0	0.0	-5.0	10.0	+15.0	▲9.1	+4.1	
仕入価格	▲5.0	20.0	-25.0	25.0	+30.0	13.7	-18.7	
在庫	5.0	0.0	+5.0	0.0	-5.0	4.6	+0.4	
内訳	過剰	15.0	15.0	0.0	10.0	-5.0	13.6	+1.4
	適正	75.0	70.0	+5.0	80.0	+5.0	77.3	-2.3
	不足	10.0	15.0	-5.0	10.0	0.0	9.0	+1.0
資金繰り	▲10.0	▲15.0	+5.0	▲10.0	0.0	▲9.1	-0.9	
残業時間	▲25.0	▲5.0	-20.0	▲15.0	+10.0	▲41.0	+16.0	
人手	10.0	▲15.0	+25.0	0.0	-10.0	▲13.6	+23.6	
設備投資	▲15.0	▲25.0	+10.0	▲15.0	0.0	▲22.7	+7.7	
内訳	過剰	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	適正	85.0	75.0	+10.0	85.0	0.0	77.3	+7.7
	不足	15.0	25.0	-10.0	15.0	0.0	22.7	-7.7

経営上の問題点・重点施策

	項目	前期	今期
1	売上の停滞・減少	60.0	80.0
2	利幅の縮小	30.0	30.0
3	同業者間の競争激化	35.0	20.0
4	人手不足	15.0	15.0
5	小口注文・多頻度配送の増加	15.0	10.0

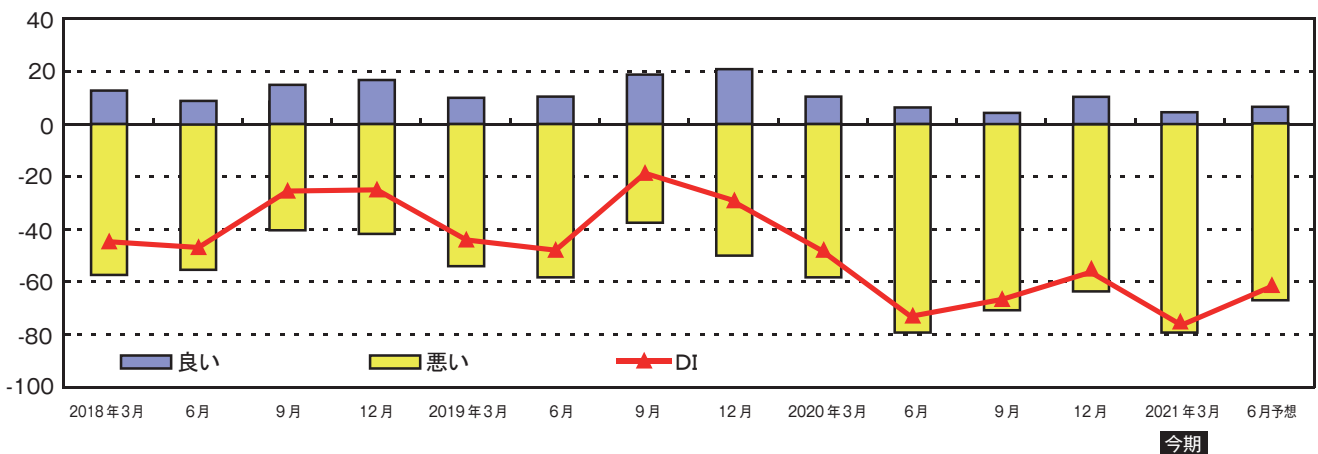
	項目	前期	今期
1	販路を広げる	40.0	60.0
2	経費を節減する	45.0	45.0
3	情報力を強化する	30.0	35.0
4	人材を確保する	35.0	30.0
5	品揃えを充実する	25.0	25.0

調査員のコメント

- 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、既往取引飲食店からの注文は減少したが、新たに弁当やテイクアウトを始める店舗があり、新しい取引先を多く獲得したことで例年並みの売上を計上することが出来た。テイクアウト用容器は新しい機能を持った商品が多く発売されており、情報の提供により販路の拡大を進めている。(その他の卸売業)
- 冬期に豪雪等の影響を受け、必要な資材が思うように入荷しなかったことで、売り上げが低迷した。近年、メーカーでは在庫量を調整しており、予定外の注文等に応じてもらえなくなった。新型コロナウイルスの感染拡大も終息が見えない状況で、今後の売上増加が期待できず、資金繰りに不安を抱えている。(その他の卸売業)
- コロナ禍の中で、首都圏等への営業活動に制限が掛かったことで売上高ならびに利益は減少した。先行きは未だ不透明であるが、国内・海外からの中古農機需要はいまだ多いことから、商品の仕入れを強化している。同業者間の競争は厳しくなっているが、新年度に向けて在庫の確保に注力している。(機械器具卸売業)
- コロナ禍の影響を受け、取引先の事業規模縮小が相次ぎ、業界内の動向の変化が激しくなっている。特に、自販機のベンダーが業務を縮小したり、人手不足により卸売業者へのサービス低下が顕著であり、業界の今後の状況変化を注視する必要がある。(食料・飲料卸売業)

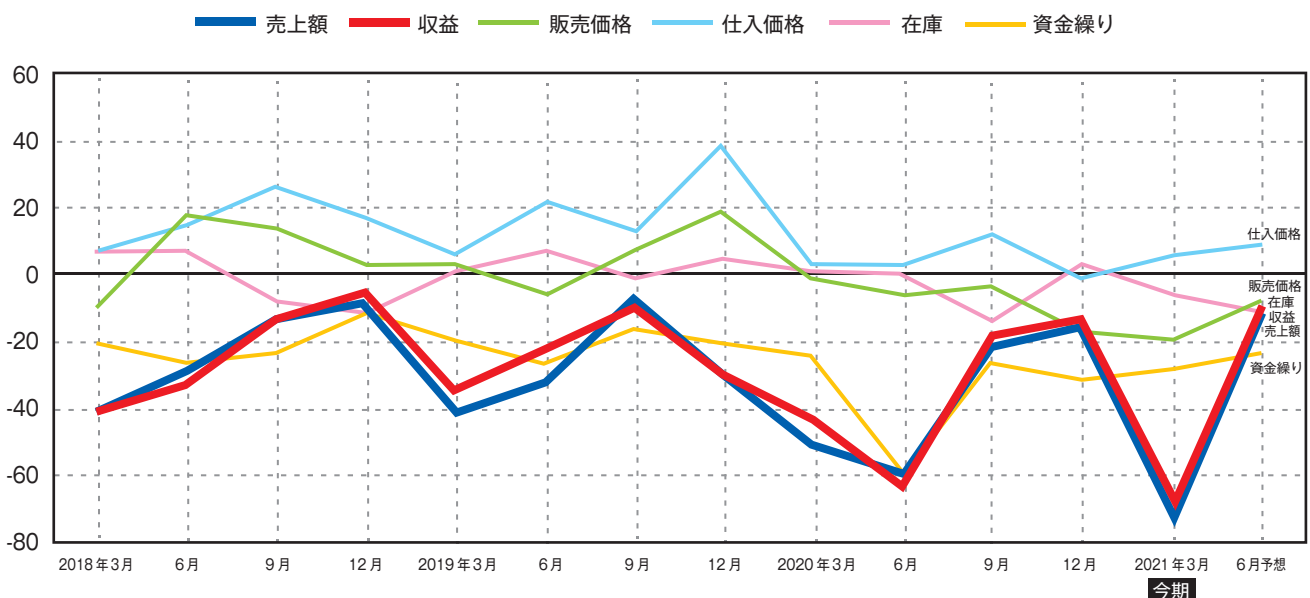
◆◆◆ 小売業 48社

概況判断 前期に比べ業況は大きく落ち込みました。



今期の業況判断は、「**良い**」と回答した企業の割合が4.2ポイント、「**悪い**」と回答した企業の割合は79.2ポイントで、業況D I（「**良い**」－「**悪い**」）は▲75.0となり、前期（▲54.2）に比べ20.8ポイントマイナス幅が拡大しました。来期（2021年4～6月）の予想D Iは▲62.4で、今期に比べ12.6ポイント改善し、業況の悪化は弱まると見通しています。

売上・収益・価格等の状況



前期（2020年10～12月）に比べ、「**売上額**」「**収益**」とも落ち込み幅が拡大しました。「**販売価格**」は前期に比べ下降幅が拡大し、「**仕入価格**」は上昇に転じました。「**商品在庫**」については過剰から品薄に転じ、「**資金繰り**」の窮屈感はやや弱まりました。

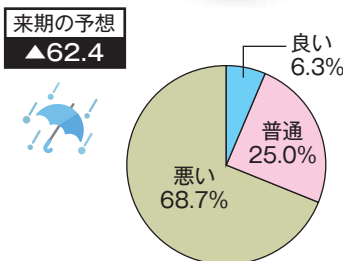
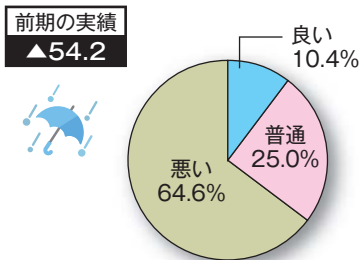
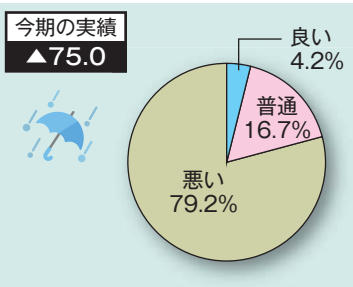
来期の見通し

来期（2021年4～6月）は、「**売上額**」「**収益**」ともにマイナスながら大きく改善すると見通しています。「**販売価格**」の下降幅は改善傾向にあると見通しているも、「**仕入価格**」の上昇幅も強まると見通しています。「**商品在庫**」については、品薄感は改善せず続くと予想しており、「**資金繰り**」については、窮屈感が弱まると見通しています。

業況判断指数(DI値)の動き

(業況判断)

(%)



		今期の実績	前期の実績	前期比較	来期の予想	来期予想比較	前年同期実績	前年同期比較
業況判断 総合		▲75.0	▲54.2	-20.8	▲62.4	+12.6	▲29.1	+47.9
内訳	良い	4.2	10.4	-6.2	6.3	+2.1	20.9	+10.4
	普通	16.7	25.0	-8.3	25.0	+8.3	29.2	+31.3
	悪い	79.2	64.6	+14.6	68.7	-10.5	50.0	+58.3
売上額		▲75.0	▲14.5	-60.5	▲8.3	+66.7	▲31.2	-52.0
収益		▲70.8	▲12.5	-58.3	▲8.3	+62.5	▲31.2	-43.8
販売価格		▲18.8	▲14.6	-4.2	▲6.2	+12.6	18.7	-2.1
仕入価格		6.2	0.0	+6.2	8.3	+2.1	37.5	+2.1
在庫		▲10.4	2.1	-12.5	▲10.4	0.0	4.2	0.0
内訳	過剰	8.4	18.8	-10.4	4.2	-4.2	16.7	+12.5
	適正	72.9	64.6	+8.3	81.3	+8.4	70.8	+75.0
	不足	18.8	16.7	+2.1	14.6	-4.2	12.5	+12.5
資金繰り		▲31.2	▲33.3	+2.1	▲22.9	+8.3	▲20.8	-25.0
残業時間		▲25.0	▲10.4	-14.6	▲18.8	+6.2	▲2.1	-6.3
人手		▲20.8	▲16.7	-4.1	▲22.9	-2.1	▲16.6	-14.5
設備投資		▲20.9	▲20.9	0.0	▲20.9	0.0	▲14.6	-12.5
内訳	過剰	2.1	2.1	0.0	2.1	0.0	2.1	+2.1
	適正	75.0	75.0	0.0	75.0	0.0	81.3	+83.3
	不足	23.0	23.0	0.0	23.0	0.0	16.7	+14.6

経営上の問題点・重点施策

順位	項目	前期	今期
1	売上の停滞・減少	58.3	64.6
2	大型店との競争激化	18.8	25.0
3	利幅の縮小	18.8	18.8
3	取引先の減少	12.5	18.8
5	店舗の狭小・老朽化	14.6	14.6

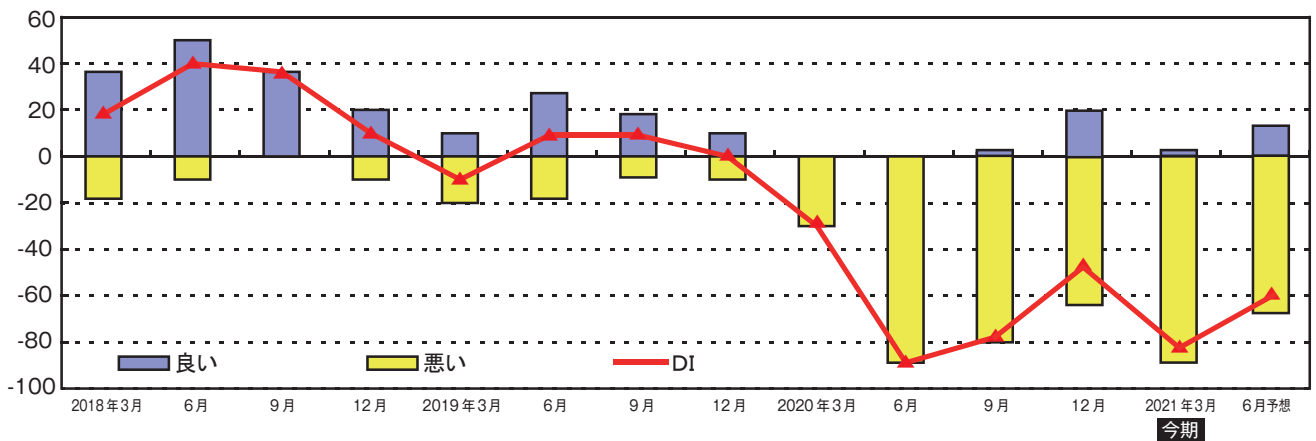
順位	項目	前期	今期
1	経費を節減する	54.2	50.0
2	売れ筋商品を取り扱う	29.2	25.0
2	宣伝・広告を強化する	25.0	25.0
2	品揃えを改善する	18.8	25.0
5	人材を確保する	14.6	12.5

調査員のコメント

- 新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け売上高大きく減少した。従業員の削減を視野に入れているも、今後は、業況持ち直しが見通せることもあり、当面は正職員からパート勤務へシフトすることにより固定経費を削減する予定で
(飲食料点小売業)
- ここ数年、売上の減少が続いている。さらに新型コロナウイルスによる影響も受けて売上高が一段と減少した。現在の状況では業況の回復は見込めないこと、事業主自身が高齢で健康に不安があることから、事業に対する意欲が薄れてきたとのこと。今後、廃業も視野に入れているとのこと。
(写真機・時計・眼鏡・貴金属小売業)
- 新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、飲食業向けの販売が大幅に減少する中であって、業務用商品の値引き要請が来ているため厳しい状況が続いている。昨年 하반기に比べ状況はやや好転したものの、当面の間、厳しい状況が続くと見通している。
(飲食料品販売業)
- 昨年10月～12月に酒田市が行った「pay pay」ポイント30%還元キャンペーンの効果は大きく売上増加した。しかし、1月以降はその反動で利用者が伸び悩み、例年の同時期に比べ売上高減少した。地元同業者との競合だけでなく、ネット通販との競合多く業況回復に苦慮している。
(写真機・時計・眼鏡・貴金属小売業)
- 当地での新型コロナウイルス感染が小康状態にあるなか、昨年は一度も開催できなかった商品展示会を行った。DMの発送や展示会により売上高も増加した。従業員個々の営業スキルの向上が必要となることから、今後は人材育成にもこれまで以上に取組んでいく。
(家庭用機器・電気機械器具小売業)

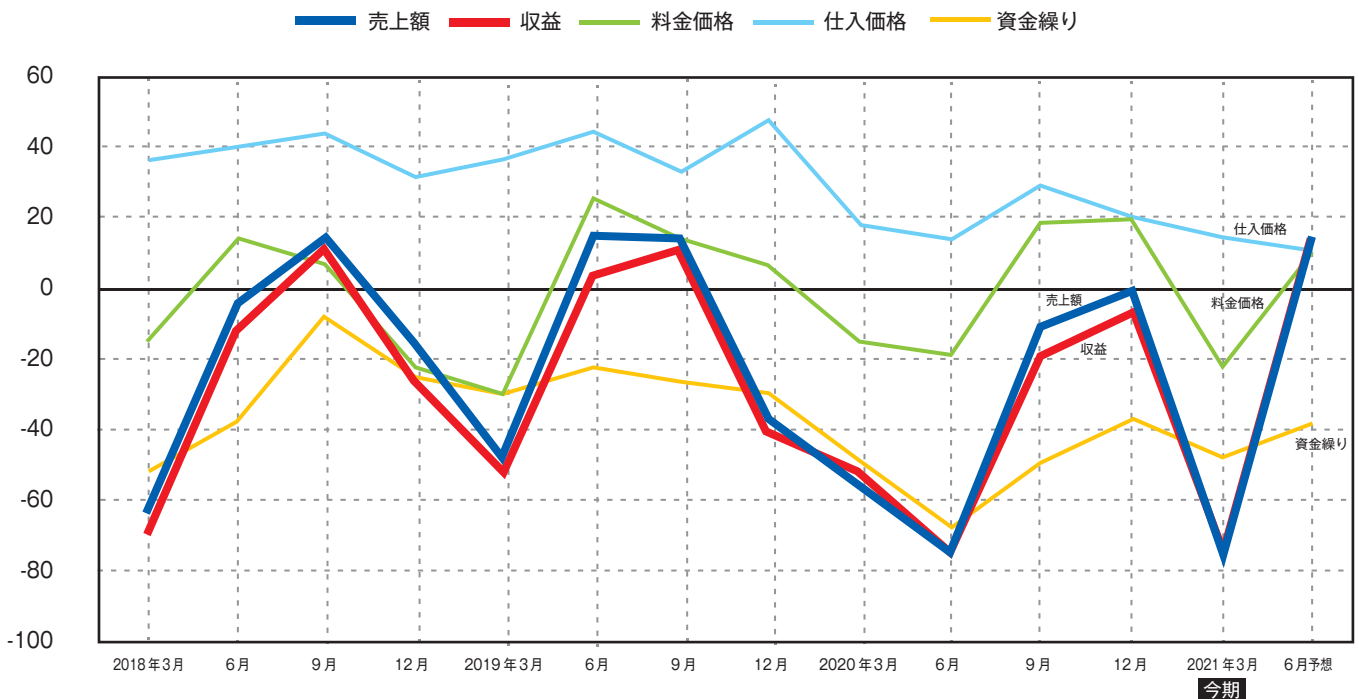
◆ ◆ ◆ サービス業 27社

概況判断 業況は大きく悪化した。



今期の業況判断は、「**良い**」と回答した企業の割合は3.8ポイント、「**悪い**」と回答した企業の割合は88.4ポイントで、業況D I (「**良い**」－「**悪い**」)は▲84.6となり、前期 (▲46.2) に比べ38.4ポイントマイナス幅が拡大しました。来期 (2021年4～6月) の予想D Iは▲57.8で、業況はマイナスながら改善すると見通しています。

売上・収益・価格等の状況



前期 (2020年10月～12月) に比べ、「**売上額**」は水面下に大きく転じ、「**収益**」も大きく悪化しました。「**料金価格**」は前期に比べ上昇から下降に転じ、「**材料価格**」は上昇幅が弱まりました。「**資金繰り**」については、前期に比べ窮屈感が拡大しました。

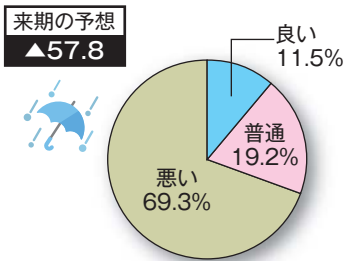
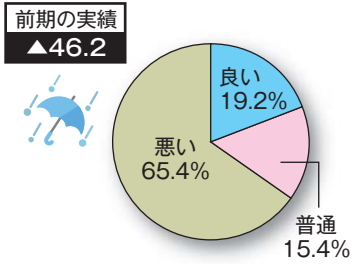
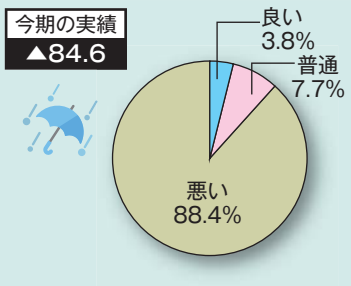
来期の見通し

来期 (2021年4～6月) は、「**売上額**」「**収益**」共に大きく改善し、水面下を脱すると見通しています。価格については、「**料金価格**」は上昇から下降に転じ、「**材料価格**」の上昇は大きく改善されると見通しています。「**資金繰り**」については、今期に比べ窮屈感が弱まると見通しています。

業況判断指数(DI値)の動き

(業況判断)

(%)



	今期の実績	前期の実績	前期比較	来期の予想	来期予想比較	前年同期実績	前年同期比較
業況判断 総合	▲84.6	▲46.2	- 38.4	▲57.8	+26.8	▲59.2	- 25.4
内訳	良い	3.8	- 15.4	11.5	+7.7	3.7	+0.1
	普通	7.7	- 7.7	19.2	+11.5	33.3	- 25.6
	悪い	88.4	+23.0	69.3	- 19.1	62.9	+25.5
売上額	▲73.1	0.1	- 73.2	7.7	+80.8	▲55.5	- 17.6
収益	▲73.1	▲7.7	- 65.4	7.7	+80.8	▲51.8	- 21.3
料金価格	▲23.1	19.3	- 42.4	7.7	+30.8	▲14.8	- 8.3
材料価格	15.4	19.2	- 3.8	7.7	- 7.7	18.5	- 3.1
資金繰り	▲50.1	▲34.7	- 15.4	▲38.5	+11.6	▲48.1	- 2.0
残業時間	▲34.6	0.0	- 34.6	0.0	+34.6	▲48.1	+13.5
人手	7.8	▲42.3	+50.1	▲15.4	- 23.2	▲14.8	+22.6
設備投資	▲23.1	▲34.6	+11.5	▲26.9	- 3.8	▲40.7	+17.6
内訳	過剰	3.8	3.8	0.0	0.0	0.0	+3.8
	適正	69.2	57.7	+11.5	73.1	59.3	+9.9
	不足	26.9	38.4	- 11.5	26.9	40.7	- 13.8

経営上の問題点・重点施策

	項目	前期	今期
1	売上の停滞・減少	69.2	73.1
2	利幅の縮小	19.2	23.1
3	人手不足	19.2	15.4
3	取引先の減少	15.4	15.4
3	店舗狭小・設備の老朽化	34.6	15.4

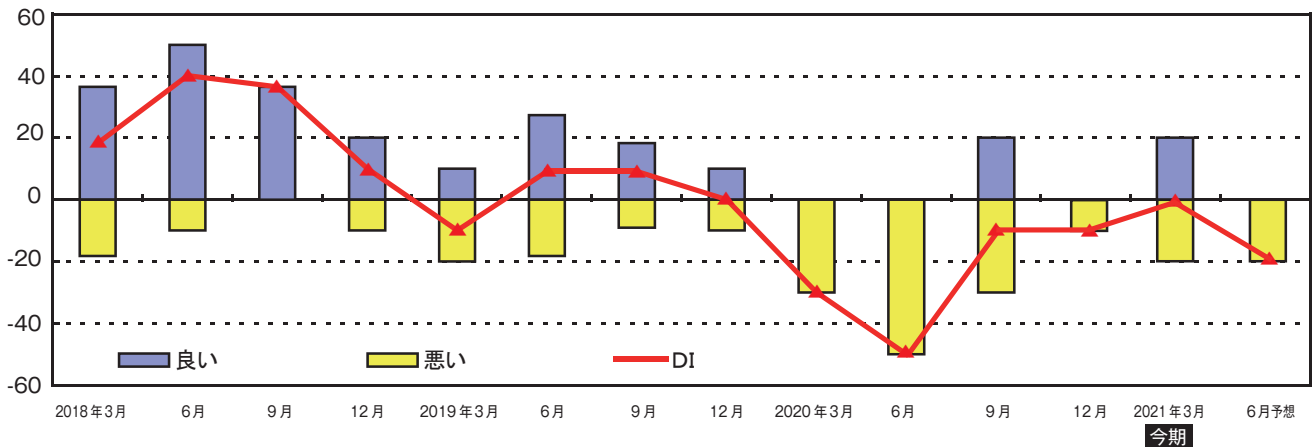
	項目	前期	今期
1	販路を広げる	34.6	50.0
2	経費を節減する	46.2	42.3
3	宣伝・広告を強化する	23.1	19.2
3	店舗・設備を改装する	19.2	19.2
3	その他（コロナ対策）	11.5	19.2

調査員のコメント

- 新型コロナウイルス感染拡大により、昨年秋期に続いて再度長期の休館を実施した。全国的に始まるワクチン接種にも楽観しておらず、実際の効果が表れるまで相当の期間が必要になると考えている。4月から始まる東北DCやゴールデンウィークにより少しでも良い影響があればと考え、準備だけは怠らないようにしたいとのこと。キャッシュレス決済等の導入も行ったが、まだ活用に至っていない。
(旅館、その他宿泊所)
- 当地有数の旅館であり、常日頃よりお客様へのサービス向上を第一に社員教育に取り組んでいる。新型コロナウイルスの感染対策に対しても、初期の段階から積極的に取り組んだことで万全の体制をとっている。他の旅館が休館する中で、日帰り入浴+食事プランを積極的にPRしており、売上確保の成果を上げている。先行きの状況が不透明ながら、その時々への対応策を講じ営業していく予定です。
(旅館、その他宿泊所)
- 首都圏等に緊急事態宣言が発令されたことを受け営業自粛を実施し、1月～3月の売上は大幅に減少した。県外からの観光客が回復するまでに、客室や設備の一部リニューアルを実施すると共に、長期間の従業員研修を行うことで本格的な営業再開に備えている。
(旅館、その他宿泊所)
- 新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、イベント等の需要がなく、影響を色濃く受けている。現在の状況が長く続き、一気にニューノーマルの時代が訪れると予想しており、今後は新分野・異業種への進出を検討している。
(その他のサービス業)

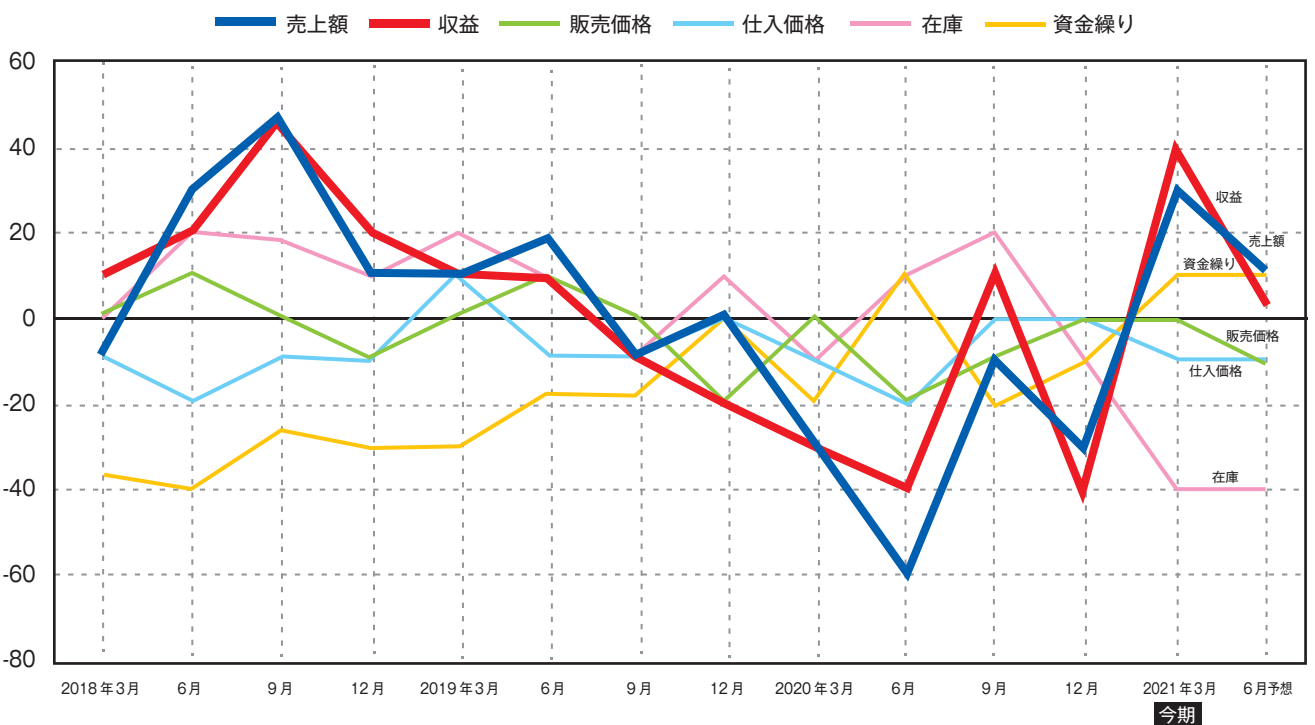
◆◆◆ 不動産業 10社

概況判断 業況は好転した。



今期の業況判断は、「**良い**」と回答した企業の割合は20.0ポイント、「**悪い**」と回答した企業の割合は20.0ポイントで、業況DI（「**良い**」－「**悪い**」）は0.0となり、前期（▲10.0）に比べ10.0ポイント改善し、業況は好転した。来期（2021年4～6月）の予想DIは▲20.0で、今期に比べマイナス幅が20.0ポイント拡大し、業況は再び悪化すると見通しています。

売上・収益・価格等の状況



前期（2020年10～12月）に比べ、「**売上額**」・「**収益**」も水面下を脱し、大きく好転しました。「**販売価格**」は改善ならなかったものの「**仕入価格**」は下降に転じました。「**在庫**」については品薄感が拡大するも、「**資金繰り**」については、窮屈感が消え、容易に転じました。

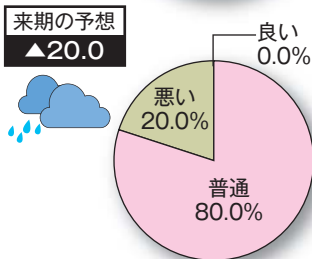
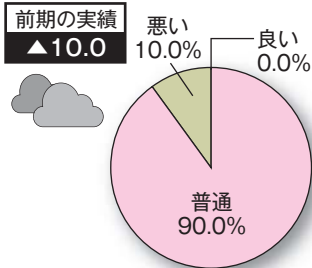
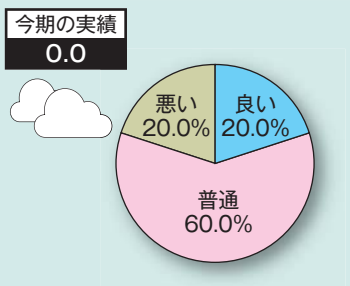
来期の見通し

来期（2021年4～6月）は、「**売上額**」の上昇は弱まり、「**収益**」は伸び悩むと見通しています。「**販売価格**」は引き続き改善しないと見通しており、「**仕入価格**」も上昇はしないと見通しています。「**在庫**」については品薄感が続くものの、「**資金繰り**」については容易な状況が続くと見通しています。

業況判断指数(DI値)の動き

(業況判断)

(%)



	今期の実績	前期の実績	前期比較	来期の予想	来期予想比較	前年同期実績	前年同期比較
業況判断 総合	0.0	▲10.0	+10.0	▲20.0	-20.0	▲30.0	+30.0
内訳	良い	20.0	0.0	+20.0	0.0	-20.0	0.0
	普通	60.0	90.0	-30.0	80.0	+20.0	70.0
	悪い	20.0	10.0	+10.0	20.0	0.0	30.0
売上額	30.0	▲30.0	+60.0	10.0	-20.0	▲30.0	+60.0
収益	40.0	▲40.0	+80.0	0.0	-40.0	▲30.0	+70.0
販売価格	0.0	0.0	0.0	▲10.0	-10.0	0.0	0.0
仕入価格	▲10.0	0.0	-10.0	▲10.0	0.0	▲10.0	0.0
在庫	▲40.0	▲10.0	-30.0	▲40.0	0.0	▲20.0	-20.0
内訳	過剰	0.0	10.0	-10.0	0.0	0.0	0.0
	適正	60.0	70.0	-10.0	60.0	0.0	80.0
	不足	40.0	20.0	+20.0	40.0	0.0	20.0
資金繰り	10.0	▲10.0	+20.0	10.0	0.0	▲10.0	+20.0
残業時間	10.0	▲10.0	+20.0	0.0	-10.0	▲10.0	+20.0
人手	▲30.0	0.0	-30.0	▲20.0	+10.0	▲20.0	-10.0

経営上の問題点・重点施策

	項目	前期	今期
1	売上の停滞・減少	60.0	30.0
1	人手不足	0.0	30.0
1	同業者間の競争激化	10.0	30.0
1	問題なし	20.0	30.0
5	商品物件の不足	40.0	20.0

	項目	前期	今期
1	情報力を強化する	40.0	60.0
2	販路を広げる	40.0	40.0
3	経費を節減する	30.0	30.0
3	宣伝・広告を強化する	30.0	30.0
5	提携先を見つける	10.0	20.0

調査員のコメント

- 新型コロナウイルス感染拡大が事業に与える影響は、現時点では限定的となっている。但し、先行きの不透明感や雇用の不安など、今後の事業展開にあたり対応が求められている。顧客の利便性向上を目的としたIT活用についてもすでに取り組みしており、コロナ禍で内覧会が行えない状況下でオンライン対応する等成果を上げることが出来た。
(その他の不動産業)
- 不動産の売れ行きは前年からみると好調に推移している。特に若年層の住宅新築や建売購入が活発な状況になっている。良質な土地や中古物件等のニーズはあるが、物件が少ないうえに同業者間の競争が厳しく、他社よりも先に情報入手することが売上増加の鍵になっている。
(建売業・土地売買業)

大型小売店の売上状況

(単位:百万円・%)

	山形県		東北	
	金額	前年同月比増減率	金額	前年同月比増減率
2019/12	14,383	△2.9	123,704	△3.1
2020/1	11,773	△3.6	101,453	△2.1
2	10,619	△1.4	93,314	2.9
3	11,681	△6.2	108,982	△4.6
4	11,021	△6.4	99,387	△6.2
5	12,067	△1.3	106,570	△1.8
6	11,629	△3.2	109,382	1.1
7	11,415	△3.7	110,122	0.2
8	12,702	△3.8	116,921	0.2
9	11,164	△8.4	102,490	△7.5
10	11,422	0.7	106,085	4.7
11	11,258	△1.0	107,871	△0.1
12	13,947	△3.0	134,787	△0.7
2021/1	11,763	0.2	9,673	△1.4

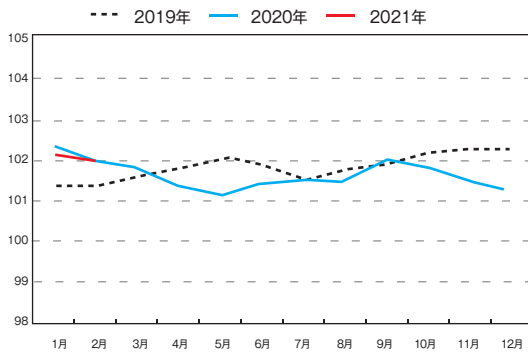
資料：東北経済産業局

(注)イ対象店舗数に変動があるため前年比は同一店舗比較
ロ売上高には消費税含む

消費者物価指数の推移

	山形県			全国		
	指数	対前月比上昇率	対前年同月比上昇率	指数	対前月比上昇率	対前年同月比上昇率
2019/12	102.3	0.0	1.0	102.3	0.0	0.8
2020/1	102.4	0.1	0.9	102.2	△0.1	0.7
2	102.0	△0.4	0.5	102.0	△0.2	0.4
3	101.8	△0.2	0.1	101.9	0.0	0.4
4	101.4	△0.4	△0.5	101.9	△0.1	0.1
5	101.2	△0.2	△0.9	101.8	0.0	0.1
6	101.4	0.3	△0.5	101.7	△0.1	0.1
7	101.6	0.2	0.0	101.9	0.1	0.3
8	101.5	0.0	△0.3	102.0	0.2	0.2
9	102.0	0.4	0.1	102.0	△0.1	0.0
10	101.8	△0.2	△0.4	101.8	△0.1	△0.4
11	101.5	△0.3	△0.8	101.3	△0.5	△0.9
12	101.3	△0.2	△1.0	101.1	△0.3	△1.2
2021/1	102.1	0.8	△0.3	101.6	0.5	△0.6
2	102.0	△0.1	0.0	101.6	0.0	△0.4

消費者物価指数(山形県)



(指数:2015年)

2016年7月分から、指数の基準時参照年次が2015年に変更になりました。
※2009年3月分まで山形県各市の消費者物価指数の公表が終了し、公表が山形市のみとなったため、2009年4月より、山形市のデータをもって山形県とする。

資料:総務省統計局消費統計課物価統計室

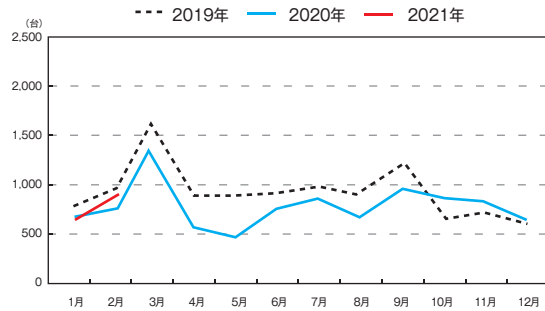
自動車の販売状況 新車販売(登録・届出)台数の推移

(単位:台・%)

	庄内地区						山形県					
	乗用		軽四輪		合計		乗用		軽四輪		合計	
	台数	前年同月比増減率	台数	前年同月比増減率	台数	前年同月比増減率	台数	前年同月比増減率	台数	前年同月比増減率	台数	前年同月比増減率
2019/12	330	△7.3	304	△19.4	634	△13.5	1,798	△11.2	1,268	△17.2	3,066	△10.7
2020/1	307	△18.8	426	△6.2	733	△4.5	1,531	△19.6	1,376	△19.2	2,907	△19.4
2	430	△16.8	323	△17.2	753	△22.4	1,985	△16.5	1,755	△17.3	3,740	△16.8
3	678	△19.8	660	△14.8	1,338	△17.0	3,361	△17.6	2,741	△14.5	6,102	△16.2
4	311	△18.6	246	△45.3	557	△33.0	1,514	△24.3	1,028	△36.7	2,542	△31.2
5	279	△34.5	199	△51.6	478	△42.8	1,283	△38.5	864	△51.1	2,147	△44.3
6	349	△19.8	427	△10.5	776	△14.9	1,680	△25.9	1,706	△16.4	3,386	△21.4
7	404	△21.9	438	△5.8	842	△14.3	1,968	△17.8	1,776	△0.4	3,744	△18.4
8	323	△21.8	341	△13.2	664	△17.6	1,625	△18.3	1,477	△8.4	3,102	△21.1
9	473	△14.0	523	△16.7	996	△15.4	2,476	△11.1	2,173	△10.0	4,649	△10.5
10	471	44.5	405	13.1	876	28.0	2,240	41.2	1,790	26.3	4,030	34.1
11	387	6.9	452	20.5	839	13.8	2,010	10.5	1,985	22.9	3,995	16.3
12	348	5.5	347	14.1	695	9.6	1,747	△2.8	1,650	30.1	3,397	10.7
2021/1	289	△5.9	334	3.4	623	△15.0	1,600	4.5	1,556	13.1	3,156	8.5
2	460	7.0	417	△2.1	877	16.4	2,032	2.4	1,897	8.1	3,929	5.0

資料：庄内自動車検査登録事務所

庄内地区新車販売(登録・届出)台数



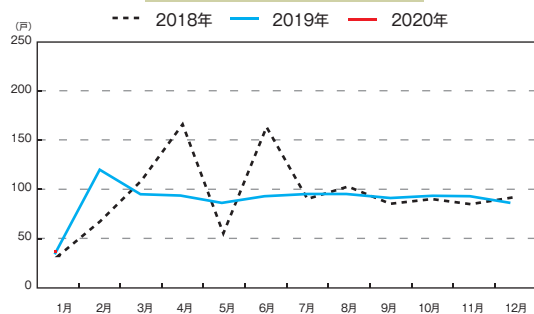
新設住宅着工戸数

(単位:戸・%)

	鶴岡市		酒田市		庄内地区		山形県	
	着工戸数	前年同月比増減率	着工戸数	前年同月比増減率	着工戸数	前年同月比増減率	着工戸数	前年同月比増減率
2020/1	24	26.3	10	11.1	36	12.5	220	△1.3
2	60	114.2	51	96.1	121	86.1	425	11.8
3	51	△8.9	33	△17.5	96	△10.2	414	△19.4
4	59	7.2	28	△71.4	91	△44.1	543	7.5
5	37	68.1	31	72.2	84	58.4	367	△33.8
6	44	△27.8	33	△64.1	94	△41.9	456	△42.5
7	56	64.7	31	△41.5	97	8.9	456	△0.2
8	50	△27.5	36	12.5	97	△4.9	540	7.3
9	40	8.1	40	25.0	82	7.8	407	△23.6
10	32	△25.5	50	61.2	92	10.8	441	19.8
11	41	△10.8	43	115.0	91	15.1	380	△20.8
12	44	12.8	24	△51.0	80	△11.1	356	△19.6
2021/1	16	△33.3	21	110.0	39	8.3	238	8.1
2								

資料：山形県土木部建築住宅課

新設住宅着工戸数(庄内地区)



求人・求職者の動き

(単位:人・%)

鶴岡	新規求人		新規求職申込み件数		月間有効求人人数		月間有効求職者数	
	人数	前月同月比較増減率	人数	前月同月比較増減率	人数	前月同月比較増減率	人数	前月同月比較増減率
2020/1	1,072	△17.9	574	9.1	2,876	△11.5	1,863	11.6
2	1,027	△15.8	506	△14.5	2,921	△14.2	1,870	3.3
3	1,144	△2.9	633	5.1	3,007	△10.3	2,040	3.2
4	929	△23.3	678	△6.5	2,723	△16.3	2,037	△3.1
5	689	△32.0	472	△18.3	2,364	△21.4	2,009	△3.2
6	1,021	△6.5	550	16.8	2,436	△18.9	2,030	1.8
7	859	△27.1	471	△16.3	2,324	△23.5	1,956	△1.6
8	816	△18.7	453	7.1	2,399	△20.1	1,943	5.5
9	954	△15.6	495	△4.3	2,512	△17.6	1,995	5.1
10	1,018	△5.1	512	△11.7	2,640	△11.5	2,019	3.1
11	768	△18.2	414	△9.2	2,533	△14.4	1,959	1.4
12	825	△20.0	338	△22.8	2,429	△14.2	1,806	△0.2
2021/1	926	△13.6	453	△21.1	2,383	△17.1	1,720	△7.7
2	924	△10.0	549	8.5	2,519	△13.8	1,821	△2.6

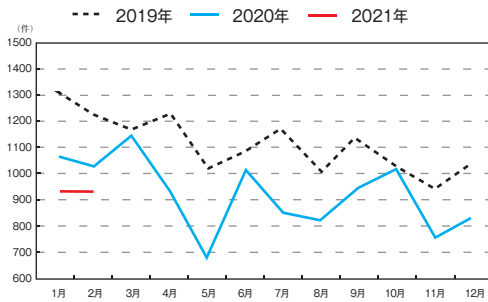
資料:ハローワーク鶴岡

(単位:人・%)

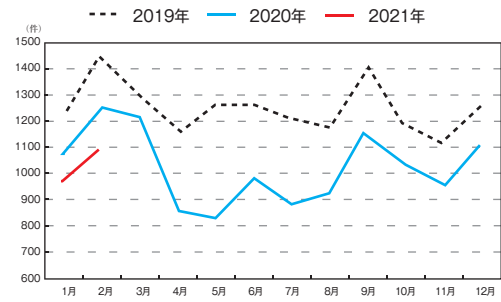
酒田	新規求人		新規求職申込み件数		月間有効求人人数		月間有効求職者数	
	人数	前月同月比較増減率	人数	前月同月比較増減率	人数	前月同月比較増減率	人数	前月同月比較増減率
2020/1	1,080	△12.4	637	△0.5	3,158	△8.7	2,012	4.8
2	1,256	△13.0	548	△14.2	3,349	△8.8	2,042	△1.3
3	1,209	△6.6	563	△20.5	3,205	△12.4	2,100	△8.2
4	859	△25.5	705	△5.7	2,897	△16.2	2,156	△7.2
5	815	△35.5	520	△7.5	2,310	△31.4	2,165	△4.7
6	982	△22.2	549	△2.1	2,361	△30.1	2,187	△0.0
7	898	△25.4	521	△17.4	2,488	△26.0	2,189	△2.8
8	918	△22.3	451	△11.9	2,541	△23.9	2,135	△1.7
9	1,153	△17.6	504	△7.9	2,750	△22.7	2,220	1.9
10	1,038	△13.0	578	△9.3	2,838	△17.4	2,260	3.5
11	958	△13.4	430	△15.5	2,803	△18.0	2,155	0.8
12	1,102	△12.6	402	△15.7	2,866	△13.3	2,054	1.7
2021/1	976	△9.6	510	△19.9	2,822	△10.6	1,993	△0.9
2	1,094	△12.9	519	△5.3	2,976	△11.1	2,038	△0.2

資料:ハローワーク酒田

新規求人数(鶴岡)



新規求人数(酒田)



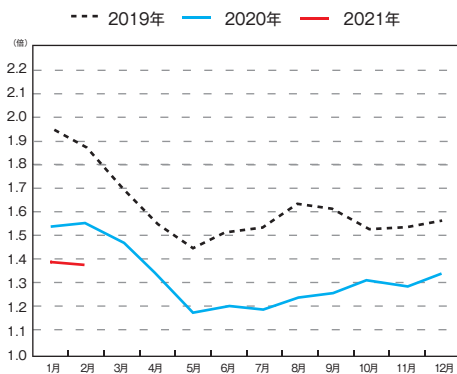
月間有効求人倍率の推移(鶴岡・酒田)

(単位:倍)

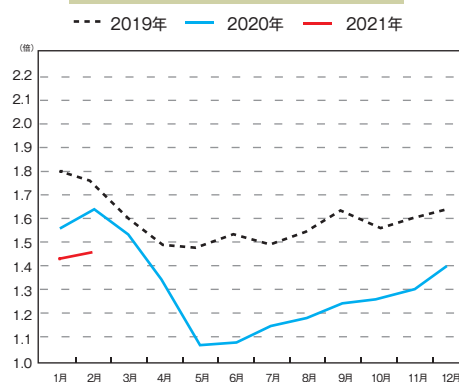
	鶴岡						酒田					
	2018年度		2019年度		2020年度		2018年度		2019年度		2020年度	
	倍率	対前年同月比	倍率	対前年同月比	倍率	対前年同月比	倍率	対前年同月比	倍率	対前年同月比	倍率	対前年同月比
4月	1.93	0.38	1.55	△0.38	1.34	△0.21	1.46	△0.05	1.49	0.03	1.34	△0.15
5月	2.00	0.35	1.45	△0.55	1.18	△0.27	1.48	△0.10	1.48	0.00	1.07	△0.41
6月	2.03	0.26	1.51	△0.52	1.20	△0.31	1.47	△0.12	1.54	0.07	1.08	△0.46
7月	2.03	0.21	1.53	△0.50	1.19	△0.34	1.61	0.02	1.49	△0.12	1.14	△0.35
8月	1.99	0.13	1.63	△0.36	1.23	△0.40	1.75	0.12	1.54	△0.21	1.19	△0.35
9月	2.00	0.07	1.61	△0.39	1.26	△0.35	1.77	0.08	1.63	△0.14	1.24	△0.31
10月	1.90	0.00	1.52	△0.38	1.31	△0.21	1.78	0.09	1.57	△0.21	1.26	△0.42
11月	1.94	△0.11	1.53	△0.41	1.29	△0.24	1.81	0.04	1.60	△0.21	1.30	△0.30
12月	1.93	△0.18	1.56	△0.37	1.34	△0.22	1.84	0.08	1.64	△0.20	1.40	△0.24
1月	1.95	△0.25	1.54	△0.41	1.39	△0.15	1.80	0.08	1.57	△0.23	1.42	△0.15
2月	1.88	△0.16	1.56	△0.32	1.38	△0.18	1.77	0.03	1.64	△0.13	1.46	△0.18
3月	1.70	△0.33	1.47	△0.23			1.60	△0.03	1.53	△0.07		

(パートを含む常用)
資料:
ハローワーク鶴岡・酒田

月間有効求人倍率(鶴岡)



月間有効求人倍率(酒田)



特別調査「新型コロナ感染拡大長期化の影響と新常态(ニューノーマル)への対応について」

問1.
貴社における今期(1~3月)の売上は、新型コロナウイルスの影響がなかった例年の1~3月と比較して、どの程度変化しましたか。

	(%)						
	全業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
1. 90%以上の減少	4.8	0.0	3.2	5.0	4.2	15.4	0.0
2. 70%以上90%未満の減少	7.1	3.0	3.2	10.0	10.4	11.5	0.0
3. 50%以上70%未満の減少	8.3	9.1	3.2	5.0	6.3	23.1	0.0
4. 30%以上50%未満の減少	17.9	27.3	12.9	5.0	18.8	26.9	0.0
5. 10%以上30%未満の減少	28.6	30.3	29.0	40.0	33.3	15.4	10.0
6. ほぼ変化なし(10%未満の増減)	28.6	30.3	45.2	30.0	18.8	7.7	70.0
7. 10%以上30%未満の増加	3.6	0.0	0.0	5.0	8.3	0.0	10.0
8. 30%以上の増加	1.2	0.0	3.2	0.0	0.0	0.0	10.0

問2.
経済社会全体が新常态へ移行していくなかで、貴社では、事業継続上の不安、心配、懸念はありますか。

	(%)						
	全業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
1. 先行き不透明による計画策定困難化	25.0	27.7	19.3	16.7	22.8	35.8	31.6
2. 既存事業の需要減少	20.1	20.0	15.8	28.6	18.5	24.5	10.5
3. 取引先の経営不安定化	11.9	15.4	10.5	23.8	12.0	3.8	0.0
4. デジタル化、オンライン化への対応の遅れ	7.0	6.2	7.0	4.8	8.7	7.5	5.3
5. 雇用の確保、維持、継続	12.8	15.4	22.8	7.1	6.5	9.4	26.3
6. 感染拡大防止対策の負担拡大	6.1	1.5	7.0	4.8	7.6	11.3	0.0
7. 事業構造転換の必要性増大	5.8	6.2	1.8	9.5	6.5	1.9	15.8
8. 事業承継問題への悪影響	4.0	0.0	8.8	2.4	5.4	3.8	0.0
9. その他	1.8	3.1	0.0	2.4	3.3	0.0	0.0
0. 不安、心配、懸念はない	5.5	4.6	7.0	0.0	8.7	1.9	10.5

問3.
新常态へ向けて、IT人材の重要性が高まる状況にあります。貴社のIT活用はどのような効果を上げていますか。

	(%)						
	全業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
<IT人材の状況>							
1. 足りている	19.6	15.2	32.3	15.0	12.5	19.2	40.0
2. 足りていない(内部育成で対応)	32.1	42.4	12.9	35.0	29.2	46.2	30.0
3. 足りていない(外部人材採用で対応)	4.2	3.0	3.2	15.0	2.1	3.8	0.0
4. 足りていない(外部業者に委託で対応)	11.9	12.1	19.4	10.0	6.3	19.2	0.0
5. IT人材の必要性をかんじていない	32.1	27.3	32.3	25.0	50.0	11.5	30.0
<IT活用の効果>							
6. 売上の上昇	10.7	6.1	3.2	0.0	10.4	26.9	30.0
7. 効率化による経費削減	20.2	18.2	25.8	45.0	16.7	11.5	0.0
8. 顧客利便性の向上	18.5	18.2	16.1	10.0	12.5	34.6	30.0
9. IT活用に取り組んだが効果が出ていない	7.7	9.1	12.9	0.0	6.3	11.5	0.0
0. IT活用には取り組んでいない	42.9	48.5	41.9	45.0	54.2	15.4	40.0

問4.
貴社では、新常态(ニューノーマル)へ向けて、どのような設備投資の意向がありますか。また、足下のコロナ禍は設備投資のスケジュールに影響を及ぼしていますか。

	(%)						
	全業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
<設備投資の意向>							
1. 新製品・新サービス進出対応	8.3	18.2	3.2	5.0	6.3	7.7	10.0
2. 老朽化設備等の更新	23.8	18.2	16.1	35.0	25.0	34.6	10.0
3. 生産・販売能力増強	7.7	15.2	6.5	15.0	2.1	7.7	0.0
4. 合理化・省力化・IT化	9.5	9.1	9.7	5.0	8.3	3.8	40.0
5. 設備投資の意向はない	50.6	39.4	64.5	40.0	58.3	46.2	40.0
<スケジュールへの影響>							
6. 当初予定通り実施	18.5	18.2	16.1	25.0	16.7	11.5	40.0
7. 計画を後ろ倒して実施	9.5	9.1	9.7	5.0	10.4	15.4	0.0
8. 当初予定はなかったが補助金等の活用により実施	8.9	12.1	3.2	20.0	8.3	7.7	0.0
9. 予定はあったが中止・凍結した	7.1	18.2	3.2	5.0	2.1	11.5	0.0
0. 当初から予定はなく、設備投資はしない	56.0	42.4	67.7	45.0	62.5	53.8	60.0

問5.
貴社では、今後どのような事業展開を実施・検討することが想定されますか、最大3つまでお答えください。

	(%)						
	全業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
1. 本業の国内取引先深耕(生産・販売・調達等)	24.1	34.6	13.5	33.3	19.4	22.5	7.7
2. 本業での新商品・サービスの展開	26.3	25.0	18.9	14.8	25.4	40.0	23.1
3. 本業の海外展開(生産・販売・調達等)	1.8	1.9	2.7	7.4	0.0	0.0	0.0
4. 副業(既存の別事業)の拡大	5.7	5.8	8.1	11.1	3.0	5.0	0.0
5. 新規事業への参入(多角化)	7.9	9.6	0.0	11.1	7.5	10.0	7.7
6. 本業の縮小	3.5	3.8	2.7	0.0	4.5	5.0	0.0
7. 副業(既存の別事業)の縮小	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
8. 業種転換	0.9	0.0	0.0	0.0	3.0	0.0	0.0
9. M&Aの活用等	3.5	1.9	2.7	0.0	4.5	5.0	7.7
0. 特になし	26.3	1.9	51.4	22.2	32.8	12.5	53.8



第187回 中小企業の景気動向

発行所 鶴岡信用金庫
郵便番号 997-0035
山形県鶴岡市馬場町1番14号
電話 0235-22-2360(代表)
担当部 総合企画部
電話 0235-22-2680(直通)
ホームページ <https://www.tsuruoka-sk.jp/>

2021年4月発行